

さわさわと桑の葉を食む蚕

昔ながらの道具を使い、丁寧に育てられ白く輝く繭

山鹿に今も残る養蚕の事をお伝えしていきます。

そして、お蚕さんの起源といわれるクワコや

美しい光沢をもつ絹糸を生み出すヤママユは、

野蚕と呼ばれ、蚕(家蚕)の仲間です。

その繭からも

人の手によって美しい絲が作られています。

これからも養蚕が失われませんようにと願いながら

「家蚕と野蚕の繭絲展」を開催いたします。

山鹿・湯の端美術会

木部律子



家蚕と野蚕の繭絲展

2019.11.8 (金)~10 (日)

会場：天聴の蔵【大蔵】山鹿市山鹿 1392
会場：古民家ギャラリー百花堂 山鹿市山鹿 1371
お問い合わせ先 tel.080-6426-4519 (木部)

繭ハンター三田村敏正 講演会

繭の世界へようこそ！

魅力的な世界の野蚕繭

2019.11.9 (土)

13:00~16:00

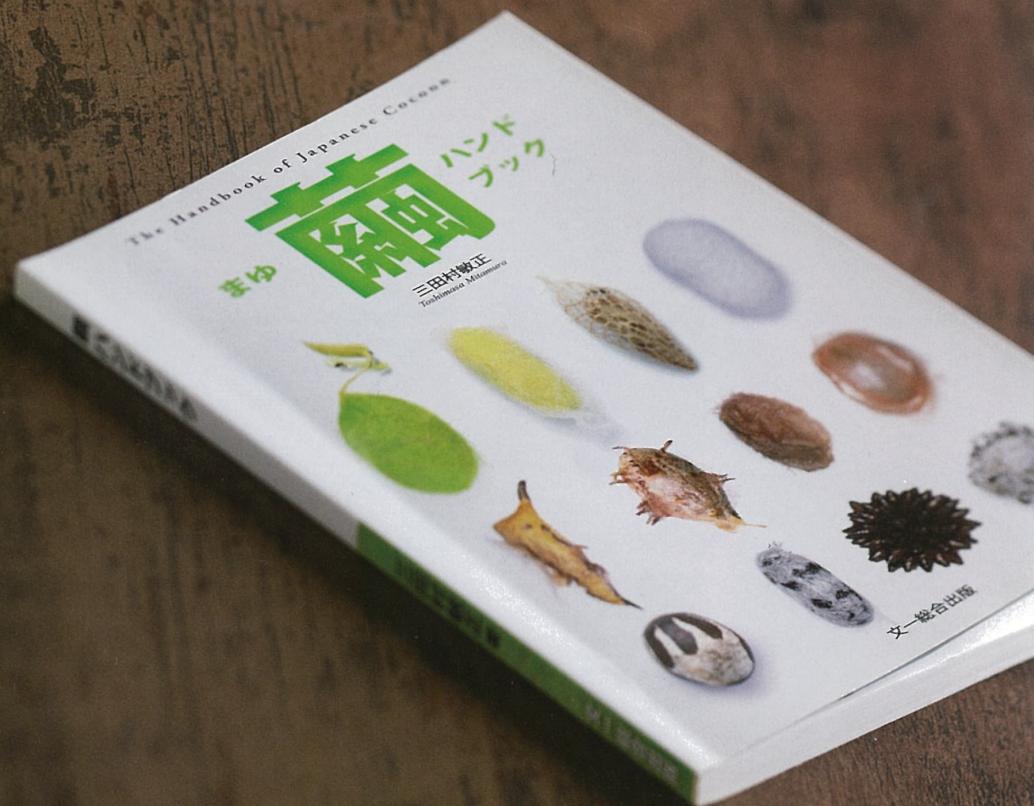
会場：天聴の蔵【大蔵】山鹿市山鹿 1392 番地

野外に暮らす蚕の仲間たちの繭に触ながら、野蚕の魅力に親しみ
繭から直接糸をとる糸取体験を楽しみます

主催：山鹿・湯の端美術会

協賛：一般社団法人 熊本県蚕糸振興協力会

後援：熊本県、山鹿市、長野清平先生顕彰の集い



野蚕ってなんだろう

野山にいて繭を作る昆虫のお話や標本や多数の繭が展示されます。



成虫は山鹿の野山にもいて、
飛べるよ

ヤママユ (テンサン) 【ヤママユガ科】

長さ 4.0～6.0cm
直径 2.3～3.0cm

緑色で美しい。幼虫の餌であるクヌギ、コナラ、ミズナラなどの葉っぱを繰り繭を作る。天蚕糸は繊維のダイヤモンドと呼ばれている。



美しい翡翠色で
不思議な仲たちをしている

ウスタビガ 【ヤママユガ科】

長さ 3.3～4.2cm
直径 1.5～2.0cm

美しい翡翠色と独特の形をしています。東北では「やまびこ」と呼ばれている。ヤママユガの仲間では最も遅い晩秋から初冬に成虫が発生する。幼虫の餌はバラ科、ニレ科、ブナ科、ヤナギ科など



成虫は日本で最大の蛾

ヨナグニサン 【ヤママユガ科】

長さ 6.5～8.0cm
直径 3.0cm

褐色の日本最大の繭。成虫も日本最大の蛾。沖縄県の天然記念物。幼虫はアカギ、キーレンカンコノキ、モクタチバナ、フカノキ、ショウベンノキなどの葉を食べる。



金色に輝く繭

クリキュラ 【ヤママユガ科】

長さ 約 4cm (インドネシア)

繭をシート状に貼りつけ、細断すると金糸ができる。現地では幼虫が街路樹や果樹などの害虫であるとともに蛹は食用となる。現在では、繭生産のために飼育もされている。



網目状の繭

ヒメヤママユ 【ヤママユガ科】

長さ 4.0cm
直径 2.0cm

褐色～濃褐色の網目状の繭で中の蛹が透けて見える。緑のタワシの様な幼虫。繭は地面の落ち葉の間などに作られる。

家蚕ってなんだろう

屋内で飼育されている蚕の事です。



成虫は野山にいて、飛べるよ
野蚕のクワコはカイコの起源といわれているのです

クワコ 【カイコガ科】

長さ 2.5～3.5cm
直径 1.5～2.2cm

淡黄色で柔らかい。毛羽で覆われた中にやや堅い繭本体がある。幼虫の餌であるクワの葉やその近くの植物の葉を継ぐ。カイコの起源であろうと言われている。野蚕なので飛べる。



家蚕の繭。
成虫は飛べないよ

カイコ 【カイコガ科】

長さ 2.5～4.0cm
直径 1.0～2.5cm

飼育種で、自然には生息していない。非常に多くの品種があり、また遺伝的形質による系統も極めて多數存在する。色は白色が多いが、黄色や淡緑色、オレンジ色など様々な変異がある。



国内外で野蚕繭の啓蒙普及や未利用繭の探索を行われています
三田村 敏正 (みたむら としまさ)

1960 年東京都葛飾区生まれ。東京農工大学農学部蚕糸生物学科卒業。ヤママユ(天蚕)を中心としたヤママユガ科の生態を研究しながら、福島県の昆虫相調査を実施。ヤママユの研究で博士(農学)取得。日本昆虫学会、日本野蚕学会、日本蛾類学会、日本トンボ学会など昆虫関係の各学会に所属。著書に『ウォッキング・ふくしまの生き物たち』(福島民友新聞社・共著)『ゲンゴロウ・ガムシ・ミズスマシハンドブック』『タガメ・ミズムシ・アメンボハンドブック』(いずれも文一総合出版・共著)

著書『繭ハンドブック』文一総合出版

昆虫が幼虫から蛹になるときにつくる「繭」114 種と世界の繭、繭と紛らわしいもの 23 種がわかる。有名なカイコをはじめヤママユ、ウスタビガなど美しくて有用性の高い繭から害虫の繭や意想外な繭まで、多種多様な繭を紹介した初めての繭図鑑です。原寸大掲載繭一覧つき。